

千葉眞『資本主義・デモクラシー・エコロジー』

(筑摩書房、2022年)

オンライン合評会

2022年8月29日(月) 13:00~16:15

(最大でも16:30には終了予定)

【登壇者】

著者：千葉眞（国際基督教大学）

評者：齋藤純一（早稲田大学政治経済学術院）

杉田敦（法政大学法学部）

田村哲樹（名古屋大学大学院法学研究科）

山田祥子（東北大学大学院法学研究科）

司会：山崎望（駒澤大学法学部）



問い合わせ先：加藤雅俊（立命館大学産業社会学部） mkato@fc.ritsumei.ac.jp

開催形態：Zoomのミーティング

事前登録制

参加をご希望の方は、8月26日(金)の17時までに、以下のリンク先または右のQRコードからお申し込みください。

合評会前日までに、Zoomのリンク先を送付します。

<https://forms.office.com/r/aDQgFShuWX>



先進諸国の政治体制として長年にわたり機能してきた自由民主主義体制は、金融資本主義への移行や地球環境の変動に直面するなかで、その正統性が大きく揺らぎつつある。なぜ／どのように自由民主主義体制は、代表制の機能不全、社会保障の劣化、地球環境危機といった諸課題に直面することになったのか。そして、これから先、どこに向かっていくべきなのか。これらの問いは、人文社会諸科学の研究者にとって重要なだけでなく、現代社会に生きるすべての人びとにとっても重要なものである。

政治思想史研究者である千葉氏は、これらの問いに対して、古今の思想家・理論家の分析を丁寧に読み解き、再構成することによって、自由民主主義体制の揺らぎの思想（史）的背景とこれから進むべき道すじとその方策を示す。

合評会では、日本の政治思想・政治理論研究を牽引している4名の研究者からコメントをいただき、その後、千葉氏から評者に対して応答いただき、ディスカッションに移る。

本企画が、現代社会が直面する複合的な課題を、思想史的な観点から巨視的に分析した本書のより深い理解につながるだけでなく、自由民主主義体制の過去・現在・将来について多角的に考える機会となれば幸いである。

【主催】

科学研究費・基盤研究(A)「『資本主義と民主主義の両立(不)可能性』の政治理論的研究」(研究代表者：田村哲樹)

【共催】

立命館大学人文科学研究所・重点プロジェクト「グローバル化と地域の多様性(diversity)」

